

看護部

渡津千代子

平成 26 年度は、「病院更新築の計画を確実に進める・年度計画の着実な達成」の病院方針のもと、経営改善を意識しながら、職員が一丸となり MBL（メタロベータラクタマーゼ）産生腸内細菌科細菌のアウトブレイク対策に迫られた 1 年であった。看護部の目標は「安全・安心で信頼できる質の高い看護の提供」「看護実践能力の高い人材の育成」「病院経営への積極的な参画」「快適な職場環境づくり」とし、特に感染防止行動の徹底に力を入れた。

感染管理認定看護師が 3 名であったが更に 1 名育成し、専従 1 名、MBL コホート病棟に 1 名、救命救急センターに 1 名、外来は師長として配置し、それぞれが情報の共有、組織強化に努めた。8 月から MBL 集約のコホート体制をとり、MBL 病棟を編成し人事配置をした。また、MBL 特命看護師長を配置し感染防止対策を強化した。取り組みの結果、新規の MBL のアウトブレイクはなく経過した。また、病院全体での MRSA 院内発生率が 0.41% であり過去 5 年間で最も低い値となり手指衛生の徹底や標準予防策の徹底などの取り組みが効果的であったと考えられる。

看護研究業績への取り組みでは、看護部の看護研究計画審査委員会の人選を行い、臨床研究推進室室長、専門看護師、看護学校教員、事務部長等の多方面からの意見を取り入れ、計画段階での介入に力をいれた。その結果、著述（12 題）、発表は第 68 回国立病院総合医学会（5 題）、第 16 回医療マネジメント学会学術集会（5 題）、第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会（2 題）とシンポジウム（1 題）、第 12 回国立病院看護研究学会学術集会（2 題）、第 20 回集団災害医学会（2 題）、第 42 回日本小児神経外科学会（1 題）、第 17 回日本腎不全看護学会（1 題）、第 11 回日本循環器看護学会学術集会（1 題）第 16 回日本母性看護学会（1 題）第 21 回日本家族看護学会学術集会（1 題）、第 45 回日本看護学会学術集会「看護管理」第 56 回近畿地区国立病院看護学会（2 題）とシンポジウム（1 題）、第 8 回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会（1 題）、第 9 回大阪小児緩和ケア研究会（1 題）、第 7 回日本感染管理ネットワーク近畿地方会（1 題）第 2 回大阪府看護学会（1 題）、関西チーム医療研究会（1 題）、メディアセミナー講演（1 題）であった。

当院には現在、急性・重症患者看護専門看護師 1 名、慢性疾患看護専門看護師 1 名、母性看護専門看護師 1 名、認定看護師としてがん性疼痛看護 3 名、がん化学療法看護

1 名、緩和ケア 2 名、乳がん看護 1 名、がん放射線療法看護 1 名、救急看護 1 名、集中ケア 1 名、皮膚・排泄ケア 1 名、感染管理 4 名、糖尿病看護 1 名、慢性心不全看護 1 名の計 20 名と HIV コーディネーター 5 名、臨床研究コーディネーター 5 名、合計 30 名のスペシャリストがいる。JNP（日本版診療看護師）も 6 名となりチーム医療が充

実してきている。研究の質の向上と共に、人材の育成・活用に努めていく所存である。

【2014 年度研究発表業績】

A-4

藤井秀子：大腸切除術での ERAS による周術期管理と看護のポイント「最新消化器看護」Vol.19 NO.3：P55-60、日総研、2014 年 8・9 月号

江並亜希子：よくわかる！すぐできる！消化器外科ナースのための抗がん剤取り扱い説明書 曝露を防ぎ安全に実施するために（総論 抗がん剤の取扱いにはなぜ注意が必要なのか？）「消化器外科 NURSING」Vol.19 No.7：p.66-69、メディカ出版、2014 年 7 月

江並亜希子：よくわかる！すぐできる！消化器外科ナースのための抗がん剤取り扱い説明書 曝露を防ぎ安全に実施するために（点滴更新時）「消化器外科 NURSING」Vol.19 No.7：p.75-79、メディカ出版、2014 年 7 月

江並亜希子：パクリタキセルの滴下速度の調整方法は？「Nursing Mook ケアの疑問解決 Q&A 認定看護師が答える看護のコツとワザ」月刊ナーシング編集室：p.88-89、学研メディカル秀潤社、2014 年 9 月

江並亜希子：抗がん薬の血管外漏出への対応と投与管理のポイントは？「Nursing Mook ケアの疑問解決 Q&A 認定看護師が答える看護のコツとワザ」月刊ナーシング編集室：p.90-92、学研メディカル秀潤社、2014 年 9 月

江並亜希子：がん化学療法開始後 1 週間ほどで、下痢を発症した患者への対応は？「Nursing Mook ケアの疑問解決 Q&A 認定看護師が答える看護のコツとワザ」月刊ナーシング編集室：p.93-95、学研メディカル秀潤社、2014 年 9 月

江並亜希子：原著 乳癌患者における FEC 療法中の口腔粘膜炎の発症と Rebamipide 製剤の治療効果に関する検討「癌と化学療法社」Vol.41 No.11：p.1407-1412、癌と化学療法、2014 年 11 月

江並亜希子：そのまま使える 治療別 患者説明シート～手術・化学療法・放射線療法～（化学療法を受ける患者さんへ）「プロフェッショナルがんナーシング」Vol.5 No.1：p.22-29、メディカ出版、2015 年 2 月

江並亜希子：キードラッグ&副作用別そのまま使える がん化学療法患者説明ガイド

(FGFR 阻害薬の皮膚症状)「プロフェッショナルがんナーシング 2015 年臨時増刊」監修三嶋秀行：p.133-139、メディカ出版、2015 年 2 月

江並亜希子：キードラッグ&副作用別そのまま使える がん化学療法患者説明ガイド (手足症候群)「プロフェッショナルがんナーシング 2015 年臨時増刊」監修三嶋秀行：p.140-145、メディカ出版、2015 年 2 月

四方文子：わたしたちのがんナーシング！「プロフェッショナルがんナーシング第 5 巻 1 号」：P3、メディカ出版、2015 年 1 月

A-6

高田幸千子：検査結果の見落としによる診断ミス「患者安全推進ジャーナル 2015 別冊」P70-77、公益財団法人日本医療機構評価機構、2015 年 3 月

B-3

下司有加：最近、あの人来てないね。第 28 回日本エイズ学会学術総会、大阪市、2014 年 12 月

B-4

宮本典子、渡津千代子：専門・認定看護師の活動支援。第 16 回日本医療マネジメント学会学術集会、岡山市、2014 年 6 月

猶木恵：A 病院における超過勤務削減に向けた薬剤搬送業務の改善。第 16 回日本医療マネジメント学会学術集会、岡山市、2014 年 6 月

北方梨佐：当院の副看護師長会活性化に向けた取り組み。第 16 回日本医療マネジメント学会学術集会、岡山市、2014 年 6 月

津村麻衣子：当院でリーダー役割を担う中堅看護師の実態～業務量調査をとおして～。第 16 回日本医療マネジメント学会学術集会、岡山市、2014 年 6 月

尾池真理：超勤ゼロを目指した入院業務の現状調査～クリニカルパスの使用の有無を比較して～。第 16 回日本医療マネジメント学会学術総会、岡山市、2014 年 6 月

高田幸千子：心拍監視モニタアラーム種別毎の消音時間と看護師のアラーム対応の調査分析。第 9 回医療の質・安全学会、千葉市、2014 年 11 月

森岡咲、井上安奈、甲斐万理子、金山美紀、福峯美智子、大萩こずえ、中村浩子：再入院を繰り返す心不全患者の自己管理不足の要因～当病棟の傾向～。第 68 回国立病院総合医学会、横浜市、2014 年 11 月

永山麻祐：化学療法を受ける患児へのパンフレットを使用した手洗い指導方法の有効性。第 68 回国立病院総合医学会、横浜市、2014 年 11 月

土井眸、瀧花佑美枝、本田千晴：視力低下の状態での退院する眼科疾患患者の退院指導の充実に向けた現状分析。第 68 回国立病院総合医学会、横浜市、2014 年 11 月

大岩裕子、内田由香：術後せん妄発症の要因～術後せん妄を発症した患者を振り返って～。第 68 回国立病院総合医学会 横浜市 2014 年 11 月

鈴江麻里、日阪奈生：VP シヤント術を受けている患児の親の思い～VP シヤント術を受けた患児の親へのインタビューを通して～。第 42 回日本小児神経外科学会、仙台市、2014 年 5 月

早川寛恵：血液透析導入前日から維持透析移行までに看護師が提供すべき情報の検討～看護の質の向上を目指して～。第 17 回日本腎不全看護学会、千葉市、2014 年 11 月

苅山有香：高齢心疾患患者の入院中におけるせん妄及びせん妄様症状の出現状況と看護師の判断及び対応に関する研究。第 11 回日本循環器看護学会学術集会、大阪市、2014 年 10 月

福田愛香、山尾美希、増田雅子：HIV/AIDS 患者の日常生活における服薬継続の困難内容と退院支援の充実にむけて。第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪市、2014 年 12 月

下司有加：HIV 陽性者の二次感染予防に関する認識と行動。第 28 回日本エイズ学会学術総会、大阪市、2014 年 12 月

長井稔、熊谷由美子、鈴木智子、若井聡智、定光大海：災害対応に精通していない病院が災害時に自助できるようにするための支援。第 20 回集団災害医学会、立川市、2015 年 2 月

熊谷由美子、渡邊由紀、西野万寿子、高田幸千子：災害時の待機的治療群救護所（黄色救護所）の効果的運営への挑戦。第 20 回集団災害医学会、立川市、2015 年 2 月

宮地由紀子：体位固定による神経障害再発予防に向けた医療安全管理係長の取り組み。
第12回国立病院看護研究学会、京都市 2015年1月

松田勇児：新人看護師の看護技術力向上に向けての取り組み。第12回国立病院看護研究学会学術集会、京都市、2014年1月

藤田真衣：産褥期における防災教育が褥婦の防災意識に与える影響。第16回日本母性看護学会、京都市、2014年6月

下中優：母親役割を担うがん患者の子どもへの告知～告知の有無に関する意思決定支援を支える方法についての考察～。日本家族看護学会第21回学術集会、岡山市、2014年8月

山尾美希：当院で活躍する認定看護師が感じる困難感。第45回日本看護学会学術集会「看護管理」、宮崎市、2014年9月

長谷川真弓：身体抑制（拘束）実施における判断視点の明確化～急性期脳神経科病棟で働く看護師の意識調査を実施して～。第68回国立病院総合医学会、横浜市、2014年11月

B-5

宮本典子：「子育てしながら働く」を支える。第56回近畿学会、大阪市、2014年10月

B-6

谷口美由紀：MBL 産生腸内細菌科細菌の集積とその対応。第7回日本感染管理ネットワーク近畿地方会、大阪市、2014年9月

小川歩、田中里佳：初回入院で午前中に処置等のある患児の生活リズムを整える関わりの効果。第9回大阪小児緩和ケア研究会、和泉市、2014年12月

今園歩実：患者・家族との面談を取り入れたICU患者参加型看護の効果。第56回近畿学会、大阪市、2014年10月

里村友子、近藤美由紀、水野敬子：終末期患者を抱えた家族の危機的状況下に対する看護介入～二重ABCXモデルを用いて～。第2回大阪府看護学会、大阪市、2014年6月

池永幹菜子、吉川啓子、衣笠ゆかり：術前訪問に対する手術室看護師の意識調査～術前訪問実施率の向上をめざして～。第8回日本医療マネジメント学会大阪支部学術学会、大阪市、2015年2月

高田聖子、江並亜希子、馬場奈央、正岡美幸、阿部恵、阿島美奈、池田正孝：がん化学療法を受ける患者の血管外漏出と静脈炎に関する実態調査～血管アセスメントシートを使用した取り組み～。関西チーム医療研究会、大阪市、2015年2月

井野姫呂美：看護師の転倒に対する危険予知力の現状～KYTシートを用いて～。第56回近畿学会、大阪市、2014年10月

B-8

江並亜希子：メディカセミナー 明日からのケアに使える消化器がん化学療法の知識、メディカ出版、2014年7月5日